

2023年度 大学入学共通テスト 数学ⅠA(本試験) 分析

試験時間70分

難易度	出題分量	出題傾向
<p>易化 昨年度に比べると、計算量が減っている分、解きやすくなった。初見の問題も誘導が分かりやすく解きやすくなっている。</p>	<p>変化なし ページ数は増えたが、思考力が必要な問題が減少したため、解きやすくなった。しかし、全体的に分量が多いことに変わりはない。</p>	<p>共通テストの特徴である日常の事例に関する出題(バスケットボールの軌道に関するもの)以外にも証明の穴埋め問題等、典型問題ばかりにならないよう配慮が感じられた。</p>
<p>総評 計算量の多さや高度な思考力を求められた昨年度と比較すると取り組みやすいと感じた受験生も多かったであろう。『2次関数』ではバスケットボールの身近な問題を数学の式に置き換えて解く問題、『図形の性質』では、論理的に証明を行っていく穴埋め問題であり、共通テストの目指す方向性が現れている問題であった。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	[1]数と式 [2]図形と計量	30点	[1]誘導が丁寧であり解きやすい。置き換えることが分かれば容易に解ける。 [2]球の表面上の3点が描く外心を見抜ければ、容易に解くことが出来る。
第2問	[1]データの分析 [2]2次関数	30点	[1]数値が与えられており、計算も容易であった。 [2]バスケットボールの軌道を2次関数に置き換える問題。2次関数の問題ととらえれば容易である。
第3問	場合の数と確率	20点	誘導がしっかりととなされており、その誘導の意図を理解できれば容易である。
第4問	整数の性質	20点	前半は最小公倍数と最大公約数に関する典型問題であった。後半は不定方程式を立式、0となるものを除くなど、戸惑ったのではないだろうか。
第5問	図形の性質	20点	作図を行っていき、証明する問題。円に内接する四角形の条件や円周角の定理などを駆使して解くことが必要であった。

受験生へのワンポイントアドバイス

身近な題材を数学に置き換えた問題や、作図からの証明問題など、数式が与えられておらず、『思考力』が必要な問題が増えてきている。また、問題自体の幅も広がってきているため、教科書や問題集の典型問題の暗記では対応できない。教科書の『コラム』や『研究』に書かれている内容や、問題集の『応用』等の付随する内容からの出題も考えられるので、隅々まで学校の教科書や問題集を『自力で解けるまで』何度も繰り返し演習することを心がけよう。